

シャロンの花だより

東教区女性会会報 第85号 (22期 第5号)

2014年7月25日

主題 「虹の架け橋」

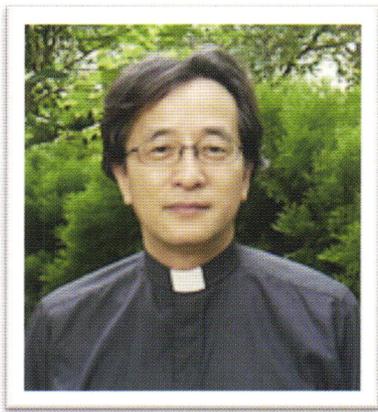
～祈り・仕え合うことで繋がりを～

「わたしは雲の中にわたしの虹を置く。

これはわたしと大地の間に立てた契約のしるしとなる。」創世記 9章 13節

「愛唱讃美歌を諳んじるほどに」

東京池袋教会牧師 立山忠浩



誰にも愛唱讃美歌があることでしょう。讃美歌は曲と歌詞から成り立っていますので、心地よいメロディーがあり、心に響く歌詞が伴っているに違いありません。教会の葬儀では故人の愛唱讃美歌を歌うことが慣わしですが、牧師は説教を作る過程において、愛唱讃美歌の歌詞に凝縮された故人の信仰者としてのご生涯を想起するものです。愛唱聖句と同様に、それぞれの愛唱讃美歌を持つことはとても意義深いことだと思います。

讃美歌と世俗曲との違いは、歌詞が聖書の言葉と結びついていることです。作詞家は自分を生かした聖書の言葉を題材にして、神を讃美し、自分自身の信仰を言葉で表現するのでしょうか。音楽を伴った信仰告白、それが讃美歌だと思います。

私にも愛唱讃美歌がいくつかありますので、口ずさむことがあります。でも意外に歌詞を諳んじていないことに気づきます。メロディーに比べ、歌詞を記憶することは難しいものですが、でも愛唱讃美歌の歌詞は諳んじるほどに大事にしたいものです。

私の愛唱讃美歌のひとつは、『教会讃美歌』では 213 番です。山上の説教で有名な「空の鳥をよく見なさい。…野の花がどのように育つのか、注意して見なさい」(マタイ 6:25～) という箇所を題材にしています。作詞家も作曲家もルーテル教会の信仰者です。歌詞の特徴は五七五七七の短歌調になっていることです。メロディーも素晴らしいのですが、文語調の言葉にはリズム感があるように感じられるのです。言うならば、日本人の感性に合った讃美歌ではないかと思うのです。

人にはそれぞれに感性があり、女性には女性の感性がある。それは神様から戴いた賜物であり、大切にすべきものです。自分の感性に合った讃美歌。歌詞を大切にし、聖句を思い巡らし、諳んじるほどに自分のものにするのです。きっと信仰者としての歩みを力づけてくれることでしょう。

東教区女性会会報 第85号 (22期 第5号) 2014年7月25日

発行人：日本福音ルーテル女性会連盟 東教区女性会

発行者：浅野聖子 編集：安田やまと

会長会報告

大岡左代子先生の講演をうかがって

雪ヶ谷教会 田島奈織美 (ACWC 協力委員)

大岡先生 (日本聖公会平安女学院大学チャプレン) は 2011 年 ACWC 関西支部の一日研修会でご講演下さり、たいへん好評でしたので、実際にお目にかかってお話を聞けることを楽しみに、会場の東京池袋教会へ向かいました。すっきりとした中に温かみのある会堂での礼拝。その後、講演が始まりました。

『「ジェンダー」とは社会的、文化的につくられた「性」とのこと。私自身ガサツでバタバタと日々を過ごしているので「女性」を意識する事は少ないです。が、それこそが「ジェンダー」にとらわれているようです。「女性」とは、〈やさしい／気が利く／料理が上手／かわいい〉などのイメージを知らず知らずのうちに持ってしまっているのです。

教会とは神さまに連なる群れ。「女性」「男性」「若い」「年を重ねている」に関わらず、「自分らしくいられる」場所となるよう、ほんの少しの「思いやり」を持ち寄って教会生活を送りたいと感じました。

聖公会の様子なども何う事ができ、とても有意義な時間となりました。講演会を準備して下さった「いつくしみ」委員の皆様にご感謝いたします。

最後に大岡先生が紹介して下さったお祈りを紹介します。



「神さま、あなたの不思議な力が わたしたちに先立って道を示して下さいますように。

あなたの光が私たちの上に輝き 世界をてらして下さいますように。

新しい扉を開いて歩みだす勇気と 共に歩む仲間をわたしたちに与えてください。

そして、すべての人に喜びを溢れさせてください。アーメン。」

(女性が教会を考える会「わたしたちの祈り集」より)

会長会に出席して

市ヶ谷教会 津川美代子

今回の会長会は、午前中、開会礼拝の後、「いつくしみ」関東委員会主催の講演会がありました。久しぶりの「いつくしみの会」ということで楽しみにしている会員の方もいました。

“いつくしみ”の成り立ちは、1992年にアジア7カ国のルーテル教会の女性代表を招き、日本の4つの福音ルーテル教会女性会の会員と、女性の視点から「21世紀におけるアジアの教会と宣教」をテーマに語り合ったのが始まりで、その時の素晴らしい恵みに感謝し、「いつくしみの会」が誕生したそうです。私自身は、その成り立ちを全く知りませんでした。

“いつくしみ”関東委員会は6年ぶりの開催とあって、「NRK女性の集い」等から15名の方が出席、「いつくしみ」関西委員会代表の朧山さんも参加して下さいました。

講演は、大岡左代子先生による「一人ひとりが大切にされていますか？～ジェンダーの視点から教会を考える～」というテーマで、一人ひとりが尊重され、神様からいただいた命を輝かせるためにどうすべきかを中心としたお話でした。ジェンダーという言葉にあまりなじみがありませんでしたが、大岡先生の語

られる分かりやすい言葉から、日常生活において“男”女”と性にこだわる社会風潮の中で無意識のうちに性差別をしていることに気づかされ、教会、社会、家庭において、“その人自身”を大切にすることの意味を考える有意義なものでした。

午後からは会長会がありました。メインテーマは、来年東京で開催される「連盟総大会について」でした。小委員会として東教区が担当となった「連盟総大会の開催」について事前に各教会女性会に送付されていた検討事項を中心に、浅野会長司会のもと、鈴木連盟会長との質疑応答で活発に意見や質問が交わられました。

総会のために小委員会、実行委員会が設けられ、また、会場候補地に役員の方々が何度も訪れて総会の準備が進められていることを改めて知り、役員の方々の熱意とご苦労が伝わり頭が下がりました。総会が神様の励ましのもと、祝福された会となりますようにという気持ちを強く持ちました。

閉会礼拝を終え、信仰を共にする姉妹との交わりの中、充実した一日を過ごすことができましたことを、感謝しております。



初めて会長会に出席して

津田沼教会 植松咲子

津田沼教会の今年度女性会会長を務めてはいますが、会長職は選挙で選ばれたのでもなく、推薦でもありません。津田沼教会では例年12月から年明けて2月までに次期会長は決まりますが、2014年度はひとまず歴代会長のメンバーが一巡したためか次期会長がなかなか決らず、仕方なく、不承不承、やむを得ず思わず手を挙げてしまった状況下での会長職です。女性会も会員の減少と高齢化で教会の目先の行事に奉仕することで精いっぱい現状です。そのため、日々の教会生活には直接関係がない連盟・教区女性会には、あまり関心のないまま過ごして来たように思います。今回、会長会に出席するに当たり、例会で連盟の働きについて話し合ってみました。発言は会長経験者に止まりました。雲の上の人が活躍する別世界のこととして存在しておりました。

しかし、4月26日東京池袋教会で行われた会長会に出席して深く反省をさせられました。立山牧師の使徒の働き2:1-6からの奨励で始まった会長会は、浅野会長の活動報告の一つひとつ（2013年会計報告、2015年開催連盟総会への提案事項など）に熱心な質問、疑問、そして話合い、その結果、新たに提案されて行く事項……本当に目を見張るばかりの光景でした。

自分の知らないところで、こんなに大変な奉仕をしている人達がいることに頭が下がりました。しかも、検討事項は、個々の教会・会員同士が共に祈り助け合うよき潤滑油の働きを成す項目（全国・教区総会への奉仕）、「世界祈祷日」のように、遠くの隣人（サバ神学校支援、ほしくずの会協力等）を覚えて祈る大切さにも気付かされました。頼りない会長ですが、会長がもっと連盟・教区の女性会に関心を持てるような働きができるよう奨励で励まされました。

また、会長会に先立って大岡左代子先生のジェンダーについてのお話があり「父なる神」の表現に問題ありには、びっくりしつつも貴重な学びの時となりました。感謝。

小委員会の報告

小委員会『連盟総大会開催について』話し合い報告

東教区女性会会長 浅野聖子

4月26日(土)東京池袋教会を会場に22期第5回会長会が開かれ、午後のプログラムとして、小委員会『連盟総大会開催について』シャロンの花だより及び事前に各女性会・婦人会での検討事項として鈴木直子連盟会長よりお伝えしてありました内容を踏まえ、以下の様に質問・意見をいただき、限られた時間ではありましたが活発な話し合いが持たれました。

《質問》

Q. 宿泊予約は各自で行うのか？

A. 次回会場候補地となっているオリンピックセンターの場合は、100名分の宿泊室を押さえそこから埋めていく事は可能。会場が別の場合でも例えば交通費と共にホテルパックの勧め、開催地周辺宿泊施設を一覧紹介は必要と考える。また、可能であるならば宿泊申し込みを教区毎取りまとめるというのも有効な一案と考える。

Q. 2泊3日の開催は難しいのでは？

A. 前連盟総大会(第22回)では、審議事項が非常に多く、時間が不足したまま総会での審議を終えなければならなかった。遠方より多額な費用をかけて参加するのに勿体ないとの声も多くあった。遠距離の移動を伴うため初日は午後から開始し3日目は午前中で終了するという形式にしたい。

ただし、審議事項が少ない場合はその限りでは無く、1泊2日もあり得る。

《意見》

- ・ 連盟経費節減のため、しばらくは東京開催が良いと思う。
- ・ 東京→他教区→東京→他教区→・・・と決めてしまわなくてもいいと思う。
 - ▶説明：常に東京開催では、東教区の現地実行委員の負担が大きい、他教区へも出かけて行きたい、他教区開催でこそ地元となり参加出来る会員もいらっしゃる等の理由で、東京→他教区→東京→他教区→・・・を提案。しかし、その限りでは無く状況に応じて対応したい。
- ・ 会場は東京教会または市ヶ谷センターがいいと思う。
 - ▶説明：長時間座れる座席か、食事のスペース、エレベーターなどの点から第1候補はオリンピックセンターを考えたい。
- ・ 傷害保険に入ることも必要
- ・ 会場が市ヶ谷センターの場合、宿泊場所として飯田橋駅横のユースホテルがお勧め。
- ・ 総大会が終わったときに与えられた恵みを感謝し、キリストにおける絆で全国の姉妹と結ばれている事を実感し希望を持ってそれぞれの教会で奉仕することができる、そんな思いに満たされる総大会であるように願う。
- ・ 10年後の女性会を見据えながら考えて、活動を進めていく必要がある。
- ・ 女性会は、「キリストの福音の為に奉仕していく」というところを明確にし、皆で祈り合っていく。

以上のように貴重な意見が出され、『連盟総大会開催について』の話し合いから、女性会の働きの本質にも触れられ、とても勇気づけられる恵まれた時間を共有することが出来ました。

皆さまのご意見を反映させ、6月に小委員会・東教区『連盟総大会の開催について』提案書を提出しましたことも感謝してご報告いたします。

甲信地区女性の集い報告

「甲信地区女性の集い」に参加して

諏訪教会 小口理恵子



講演される松木傑先生

6月21日土曜日、恒例の「甲信地区女性の集い」が松本教会において開かれました。今年の当番は私たち諏訪教会。聖パウロ教会牧師の松木傑先生を講師にお迎えして、「わかちあいプロジェクト」の活動を通して、「隣人を愛するとは」をテーマにお話していただくことにしました。

今回講師をお願いしたのは、私たち諏訪教会が長年続けている中古衣類送付とのご縁もありました。もう20年以上、私たちは中古衣類を送り続けています。今年もすでに10箱送っ

ています。今年は、タイのミャンマー難民やシリア難民の方々の手元に届けられるそうです。

「わかちあいプロジェクト」との縁はそんなわけで深かったのですが、松木先生が力を入れているフェアトレードについては、ほとんど何も知りません。この機会に是非お話を伺ってみたいと思い、講演をお願いしました。

講演に先立つ開会礼拝では、4月から長野・松本教会に新任された野口勝彦先生が「となりびと」と題してお話してくださいました。野口先生は、3月まで東日本大震災ルーテル支援センターの牧師として活動されたので、その時の経験は、3年を経た今でも涙を誘います。私たちは果たして被災者のとなりびとだったのだろうか？ただの同情者に過ぎなかったのではないかと自分への様々な問いかけを心に松木先生のお話を聞きました。

松木牧師は、ルーテル教会のネットワークをさまざまに使ってフェアトレードの働きを始められました。礎は定まり、中古衣類送付は様々な国の難民に届けられ、いまや1万箱を大型の船で送るまでになったそうです。フェアトレードとは、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い途上国の人々の生活改善と自立を目指さず「貿易のしくみ」をいいます。ただの寄付や同情ではありません。自助を応援するのです。

先生は、途上国の人々のために何かしよう！と思った次の瞬間にはもう行動していました。私たちにそんな行動ができるのでしょうか？そもそも隣人とは誰のことでしょうか？ますます無力を感じる私たちです。

閉会礼拝で市原牧師は言われました。誰が私の隣人であるか、探しても始まらない。今、私が誰かの隣人になること。その時、善きサマリア人・・・それは私です。それはあなたです。

この集いに参加するため、遠く松本まで来て下さった東教区女性会の役員の方々に心からお礼を申し上げます。

震災支援報告

震災支援について

女性会連盟会長 鈴木直子

東北の大震災からもう3年がたちました。普通は3年という時間はあっという間に過ぎてしまいがちですが、この3年間は長い長い日々でした。被災地の方にとっては、言い尽くせない日々であったことと思います。復興は進んでいる地域もあれば、取り残されたようになったところも多くあると聞きます。また福島の方にとっては放射能による汚染という事態に、今後どれだけの力が必要とされるのか計りがたいものがあります。私たちは何ができたでしょうか。

東教区は被災地に近いために大震災をより身近に感じ、いてもたってもいられないような日々でした。はやばやとボランティアに出掛けられた多くの兄弟姉妹がおられました。雑巾をたくさん縫ってくださった方も支援物資を送られた方も、支援金を送られた方もたくさんあったことでしょう。JLERのスタッフたちの獅子奮迅の働きがありました。女性会では吊しびなの布地や布草履を作るTシャツも集められましたし、その購入にも多くの皆さまのご協力をいただきました。ちなみに6月中旬までに布草履が243足、吊しびなは73本のご注文をいただきました。感謝いたします。

昨年訪問したときに、皆さんが仰ったことは「忘れないでね、忘れないでね、私たちのことをわすれないでね」という言葉でした。私たちは「忘れていないよ、覚えているよ」と言い、また出掛けようと思っています。

今後の予定

9月23日(祝)	一日神学校
10月4日(土)	東教区女性会会長会
11月14日(金)	ACWC 一日研修会 於) 富士見町教会
同日	2014年度 後期連盟会費等納入締切り日
11月15日(土)	東京老人ホーム訪問
2月	第23回 東教区女性会総会開催予定

編集後記



22期女性会としての最後の「甲信地区女性の集い」への参加でした。東京から7名で訪問することができました。

ルーテル学院大学のチャペルにステンドグラスを入れてくださった山崎種之さんの工房を見学させて頂き、翌日には甲府教会の礼拝にも出席でき、恵みの時間を過ごせましたことに感謝です。(Y.Y)

